

巻頭言 「GCP10期生を迎えて」 GCPディレクター 西浦昭雄……1
[GCP] GCP10周年特集 —データに見るGCPの学び— 卒業生の活躍、現役生の学び……2 - 4
[SPACE] 2019年度春期についての報告……5
[WLC] 2019年度春期の活動／教員の紹介……6
[CETL] 大場副センター長就任挨拶……7
FD・SDセミナー：第1回～5回の報告／今後の計画……7 - 8
新任教職員紹介……8

GCP10期生を迎えて



GCPディレクター 西浦昭雄

本年4月にグローバル・シティズンシップ・プログラム（Global Citizenship Program；以下、GCP）の10期生が入学した。創立50周年にむけたブランドデザインの柱の一つとして2010年4月に開設したGCPは、看護学部と国際教養学部以外の6学部（経済、経営、法、文、教育、理工）の入学生から希望者を募り、2段階選抜で約30名が合格する学部横断型オナーズ・プログラムである。第2次選抜では英語ライティング、小論文、面接試験に加え、全新生が受けるプレースメントテストとTOEICの結果を加味するなど多面的に評価している。GCPのセレクション・ポリシーには、「GCPに応募する学生に求められているのは、学生時代に徹底して学ぼうという強い意欲と好奇心、思考力や応用能力、そして地球市民（Global Citizenship）の一員として、世界平和のため、人々の幸福のために貢献しようとする大きな志です」と明記している。

学生は、主に最初の2年間で各学部のカリキュラムと並行してGCP独自の科目群を履修し、32単位を修得して修了する。GCP科目群は、週4時限の英語科目、問題解決能力や分析力を培うプログラムゼミ、数理能力を養う社会システムソリューション、少人数で専門科目の基本的な考え方から進路指導まで行うチュートリアルからなる。また、1年次の秋学期のプログラムゼミⅡと連動し、春休みには給付型奨学金でフィリピンに2週間の海外研修を実施している。また、2年次の12月にはGCPの学びの集大成の場として公開型の成果報告会を開催している。昨年からは、その成果報告会の内容をもとに、ビジネスや公共政策の実務につく卒業生との討論の場を設けている。

私は幸運にもGCPの準備段階から携わることができた。教育に対する熱意あふれる約20名の教職員が一体となり、「自分たちが学生時代に受けたかった教育」を連想しながらプログラムの中身をつくってきた。GCPに入った学生たちは期待を上回るような頑張りをしてきた（2～4頁参照）。GCP生のうち、最初の2年間

で8割がTOEIC800点を突破し、在学中に8割が長期留学を経験している。卒業した1期生から6期生までの進路先をみても、6年連続の外務省専門職をはじめ公務員、教員、大学院、グローバル企業等、進路も多彩である。卒業生の4分の1がさらなる学びを求めて大学院に進学し、なかにはオックスフォード大学やジョンズ・ホプキンス大学といった世界的に著名な大学院で学ぶ卒業生もいる。今年の3月、GCP1期生から2名の博士が誕生した。

1学年在籍者の2%足らずのGCP生に教育資源を投入するのはなぜだろうか。私は、これまで手薄になりがちだった優秀層向けの教育は、「Discover your potential 自分力の発見」を掲げて個性を伸ばそうとする本学の理念にも合致し、さらにはGCPがパイロットケースや起爆剤となることで、他の教育プログラムや他学生に好影響をもたらすことにあると理解している。そこで波及効果があると思える点について、3つの視点から整理していきたい。

第1は、学習コミュニティの広がりである。GCPでは学生は実力をつけようと徹して学び、学生同士が切磋琢磨し、それを教職員や先輩学生がサポートする学習コミュニティが形成されてきた。そうした学習コミュニティは、GCP以外でも学内の随所にみられるようになってきた。

第2は、「他流試合」への挑戦である。実に多くのGCP生が国際会議や内閣府の国際交流事業、国際機関へのインターン等のいわゆる他流試合に挑戦し、世界中の青年層と交流している。そうした経験はGCP以外の学生にも波及し、次々と国際会議等に挑戦している。

第3は、世界市民教育のさきがけという点である。本学では2014年には国際教養学部が誕生し、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業にも採択された。2018年からは共通科目に世界市民教育科目群ができ、全学生が共通科目として履修できるようになった。

本学がめざす「創造的世界市民」の輩出をめざし、これからも学生と教職員が一体となってオナーズ・プログラムのもつ可能性を追求していきたいと考えている。

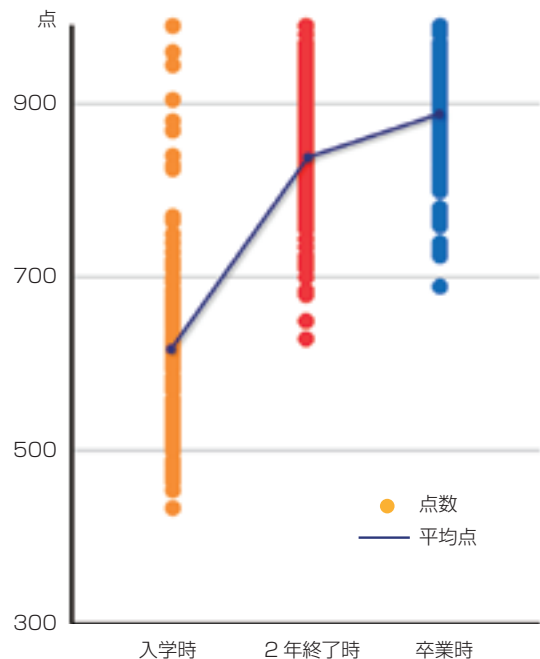
GCPで鍛える英語力

GCPの2年間のカリキュラムによって育成される能力は、アカデミックな論理的思考力・問題解決力、数理統計処理能力と実践的な英語力である。2年間の短期間で学生の英語力を徹底して伸ばすため、予習、復習を含めた授業課題は応じて膨大なものとなる。学生は寸暇を惜しんで英語の勉強に取り組み、2年間で顕著な英語力の向上を果たしている。

英語力の指標として、例えばTOEICのスコアを見てみよう。2018年度までに卒業したGCP生1期生（2010年度入学）から5期生（2014年度入学）の148名の学生のTOEICスコアは2年間で平均231点上昇している。最もスコアが伸びた学生は、入学時より415点アップしている。約8割の学生が800点を超え、3割が900点に達している。

2年間のプログラム期間と終了後の英語力の伸びと比べてみると、3年次以降から卒業までに向上したスコアの平均点は39点であった。学生にとって2年間のGCPの学びが、英語力の修得にいかにより大きな影響を与えていたかを示している。

TOEIC スコアの推移



GCP開始時から2年終了時、卒業時の最高スコアの変化。入学時から2年終了時まで、スコアの分布と平均点いずれも大幅に上昇している。

世界に羽ばたくGCP生

GCPの教育目標の一つは、異なる文化や価値観などを理解し、多様性を尊重することのできる世界市民の育成にある。学生はGCPの授業を通して、視野を広げ、世界の関心と興味を一層深めていく。特に、GCPでは、1年次終了時の春季休暇に、GCP生全員が参加する2週間の海外研修を実施している。1年次での海外経験は、GCP生の大きな刺激となり、長期の留学に挑戦する意欲となっている。

1期生から8期生（2017年度入学）までのGCP生233人のうち、留学を経験した学生（留学中を含む）は186人であり、実に8割の学生が留学していることになる。留学先も英語圏にとどまらず、多様な地域、国に留学しており、29カ国55大学・機関に及ぶ。

GCP生は、留学中も大学での学びに留まらず、積極的に現地での学びに挑戦している。ケニア・ナイロビ大学に留学した学生は、留学中に現地企業のインターンシップを行い、取り組む姿勢が評価されプロジェクトの責任者を任された。「GCPでの学びは、英語力等のスキルだけでなく、留学中での様々な経験に挑戦する志につながっている」と語っている。

◆北南米、欧州

アメリカ：デラウェア大学、ジョージ・メイソン大学、マサチューセッツ州立大学、ジョージア州立大学、ケネソー州立大学、メアリー・ボールドウィン大学、アメリカ創価大学、カナダ：プリンス・エドワード・アイランド大学、カルガリー大学、ブラジル：パラナ連邦大学、フランス：ノバンシア、オーストラリア：クラークフルト大学、イギリス：ウェストミンスター大学、クイーンズ大学ベルファスト、バーミンガム大学、ブルガリア：ソフィア大学、ロシア：ウラジオストク極東連邦大学、チェコ：マサリク大学、デンマーク：デンマーク南大学、リトアニア：ミコラス・ロメリス大学

◆アジア・オセアニア

中国：北京大学、清華大学、廈門大学、上海大学、武漢大学、吉林大学、台湾：国立政治大学、中国文化大学、香港：香港大学、香港中文大学、韓国：慶熙大学、成均館大学、フィリピン：フィリピン大学、デ・ラ・サール大学、アテネオ大学、イースト大学、タイ：タマサート大学、チェラロンコン大学、マヒドン大学、インドネシア：インドネシア大学、シンガポール：南洋理工大学、マカオ：マカオ大学、マレーシア：マラヤ大学、インド：デリー大学、インド池田女子大学、ネパール：トリブバン大学、ベトナム：ハノイ国家大学、オーストラリア：シドニー大学、ラ・トロップ大学、グリフィス大学、ブルネイ：ブルネイ・ダルサラーム大学

◆アフリカ

ケニア：ナイロビ大学、アメリカ国際大学、ザンビア：ザンビア大学、南アフリカ：ウィット・ウォーターランド大学

世界の課題に果敢に挑戦

GCPは、1年次秋学期より、3セメスターにわたり、課題発見力、問題分析力、問題解決・提案力を高めるプログラムゼミを開講している。学生は、日本を含め世界が直面する問題に目を向け、問題の要因を多角的な視点から丁寧に考察する力と問題を解決するための実践的な提案を行う力を高めることに取り組んでいる。2年次の終了時には、地球的な課題の解決に向けた提案を行う「成果報告会」を開催している。課題解決の提案は、学生が実際に実現できることを立案することに重点を置き、NGOなどの活動団体にインタビューなども行い、提案をとりまとめている。

成果報告会で発表された提案の中から、毎年幾つかが実施され、学生が現地へ赴いて活動を行っている。これまでに実施された活動には、パレスチナ難民女性の「収益向上のための刺繍プロジェクト」、カンボジアの湖水の水質改善のための「空心病プロジェクト」、ザンビアの「栄養改善教育プロジェクト」、インドネシアの「下痢罹患率改善プロジェクト」、インドでの「鉄欠乏性貧血の改善プロジェクト」などがある。実際にプロジェクトを実施することを通して、立案時に気づけなかった新たな学びを得る機会にもなっている。



インドネシアの下痢罹患率改善プロジェクト

現地の小学生を対象とした「リサイクル石鹸を使った手洗い教育プロジェクト」をガジャマダ大学と協力して実施した。学生は8ヶ月間の事前準備を経て、2週間にわたり現地に滞在し、啓発活動用の教材、歌やダンスを現地学生と一緒に作成した。活動に参加した学生は、「困難なことも多くあったが、諦めずに学生なりの方法で取り組んでいくことで、目の前の地球的課題の解決に貢献する喜びを強く感じた。また、何よりも『誰のため』『何のため』にプロジェクトを行うのかを真剣に考え抜くことが、より効果的な解決策の提案に繋がることを深く学んだ」と語っている。

国際会議等に日本代表として参加

GCPで習得した英語力やロジカルな思考力、リーダーシップ力を試すために多くの学生が“他流試合”に挑戦している。これまでにGCPの6割の学生が、在学中に国内外の国際会議や国際学会に参加している。国際会議の中には、選考の際に英文エッセイやインタビューなど高い選考基準を定めている会議もある。

国際会議の場での世界の青年との交流は、世界に友情を広めるだけでなく、物事を考える新たな視座に気づき、自身の課題を見つめる機会ともなっている。そして、GCP生は、世界の青年の知性と人格に触れることで、一層の学びの意欲を高めている。

世界銀行が2018年に米国ワシントンDCにおいて主催したユースサミットに参加した学生は、「勇気を出して自分の意見を主張し、周りから賛同を得られた経験は大きな自信となりました。GCP2年間の挑戦が自身の可能性を大きく広げてくれました」と語っている。

GCP生が参加した国際会議等

ノーベル平和賞受賞者世界サミット、G8世界サミット、Girls20サミット、世界大学総長協会総会、国際開発ユースフォーラム、国連防災世界会議Children & Youth Forum、日米世界学生会議、日露学生フォーラム、COP学生会議、日本・中国青年親善交流事業、日中韓ユースフォーラム、日中学生会議、アジア開発銀行年次総会アジアユースフォーラム、東北アジア青年フォーラム、日本アフリカ学生サミット、ハーバードアジア国際関係プロジェクト、内閣府国際青年育成交流海外青年派遣、内閣府グローバルユースリーダー育成事業、世界銀行Youth Summit、STeLA Leadership Forum、対日理解促進交流プログラム、TOMODACHI MetLife Women's Leadership プログラム、Peace Conference of Youth、国際連合政治・平和構築局国際ワークショップ、国連持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム、国連『文明の同盟』グローバルフォーラム、他

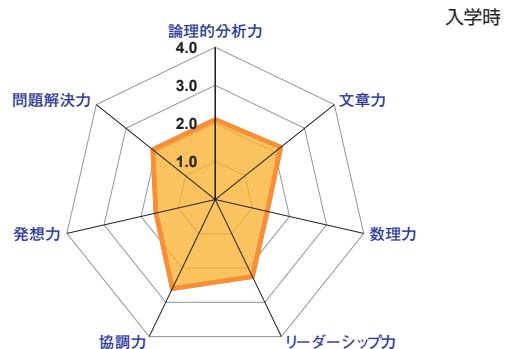
学生による学びの自己評価

GCP生の学びの原動力になっているのは、学生自らが学びの成長を実感できるからであろう。TOEICをはじめとする英語スコアの伸びも勿論であるが、「プログラムゼミ」や「社会システム・ソリューション」の授業をとおして、汎用的なアカデミックスキルを修得していることも、学習のやりがいを高めている。

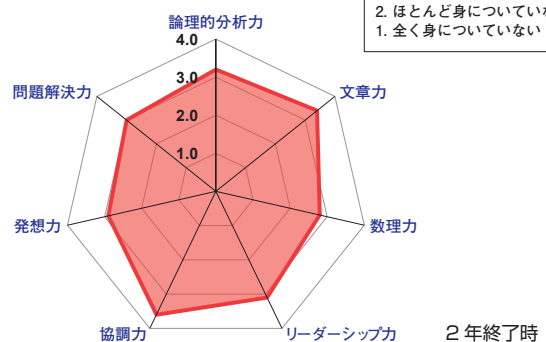
GCPでは、入学時と2年終了時に、学生の学修到達度を評価するため、学生による自己評価を行っている。項目は、論理的分析力、問題解決力、協調力、数理力などを含み、2年間の学びを総合的に評価することを目的としている。

1期生から8期生までを対象とした評価では、いずれの項目も2年間に向上していることが見られるが、入学時では自己評価が低い数理力と発想力が顕著に伸びていることが見て取れる。「社会システム・ソリューション」による数理・統計処理能力を高める取り組みや創造的な思考を促しているプログラムゼミの授業効果が表れていると言える。GCP生は、基礎的なアカデミック能力の修得をもとに、3年次以降はより専門的な学びに挑戦をしている。

学修到達度自己評価



4. 身につけている
3. やや身につけている
2. ほとんど身につけていない
1. 全く身につけていない



多様な学生の進路

GCPと学部の専門性の学びを活かし、GCP生は、多様な進路を勝ち取っている。卒業生の25%にあたる4人に1人が国内外の大学院に進学を果たし、外資系企業や国内主要企業への就職、公務員、教員等の採用試験に合格するなど実に多彩である。

海外大学院は、ジョーンズ・ホプキンス大学やオックスフォード大学など世界トップレベルの大学院をはじめ、コスタリカにある国連平和大学大学院のデュアル・ディグリープログラムなど、卒業生は将来の夢を目指して学問と研究に挑戦している。

6期生までの卒業生からは、外務省専門職6名、弁護士2名、公認会計士1名を輩出し、都道府県庁の採用試験にも毎年GCP生が合格している。

企業就職は、外資系や国内の東証一部上場企業の採用も多く、企業就職においては、長期留学や国際会議への参加などの学外での積極的な活動が評価をされている。

世界市民として社会に貢献してゆく卒業生のこれからの更なる活躍が期待される。

◆海外大学院

ジョーンズ・ホプキンス大学大学院、南カルフォルニア大学大学院、イリノイ大学大学院、モンレー国際大学大学院、オックスフォード大学大学院、サセックス大学大学院、ストックホルム大学大学院、ハイデルブルグ大学大学院、シドニー大学大学院、国連平和大学大学院、他

◆国内大学院

東京大学大学院、京都大学大学院、大阪大学大学院、北海道大学大学院、広島大学大学院、一橋大学大学院、沖縄科学技術大学院大学、創価大学大学院、他

◆企業就職

ゴールドマン・サックス証券、アクセンチュア、日本IBM、デロイトトーマツコンサルティング、プライスウォーターハウスクーパース、日本マイクロソフト、ファイザー、ジョンソン・エンド・ジョンソン、三菱東京UFJ銀行、三井物産、日立製作所、パナソニック、富士通、味の素、日産自動車、三菱自動車、昭和シェル石油、日本電波工業、他

◆公務員等

外務省専門職、大阪府庁、神奈川県庁、富山県庁、横浜市役所、他



ラーニングcommonsSPACEは、開設5周年を超え、2019年4月に利用者数は200万人に達しました。学生の学習支援のために、日々さまざまなサービスを展開しています。ここでは、2019年度春期について報告します。

ヘルプデスクにおける学習相談

ヘルプデスクは学生スタッフが学生の相談にのるサービスです。4月がヘルプデスクの最繁忙期です。その中で最も多いのが履修についての相談です。その他には、各月とも学部の課題、授業内容等に関する相談が多くなっています。

学習セミナー

表1 学習セミナー名と参加者数

セミナー名	参加者数
超初歩から教えます！「ポータルサイトの使い方・メールの送り方」	60
論じなさい？まとめなさい？「中間レポート必勝法」	46
パソコン苦手大歓迎！理系学生が伝授！「ITを駆使したスマートな学生生活（初級編）」	6
脱五月病したい！やる気UP & 持続の秘訣	7
レポートの書式がよく分からない……「ワードの使い方」	27
君は4年間をどう過ごす？「圧倒的に差がつく大学生活4年間の過ごし方」	18
レポートの参考文献が見つからない…「参考文献を探そう！」	25
Do you want to study abroad? 「交換留学必勝講座」	17
パソコン苦手大歓迎！理系学生が伝授！「ITを駆使したスマートな学生生活（中級編）」	2
「長距離通学・虎の巻 ～期末対策編～」	2

	4月	5月	6月	7月	計
履修	129	2	4	1	136
語学	24	4	7	4	39
留学	8	3	1	4	16
学部別	69	54	22	16	161
その他	55	43	29	24	151

学習セミナーは、大学生活を充実させるためのさまざまな情報を講義形式で提供するサービスです。学期中は毎月開講しています。2019年度春期に行われた学習セミナーは表1の通りです。参加者から得たアンケート回答数197のうち、「すごく良かった」は101、「良かった」は92という結果でした。良かった理由としてあげられた項目のうち最も多かったのは、表2のように、「新しい知識・情報を得られた」でした。秋期も引き続き充実したセミナーを目指していきます。

表2 学習セミナーに参加して良かった理由

理由	回答数
①内容が期待とマッチしていた	74
②新しい知識・情報を得られた	147
③内容の難易度がちょうど良かった	61
④講師の説明がわかりやすかった	113
⑤スライドや配布資料がわかりやすかった	76

日本語ライティングセンター（JWC）

●レポートチュータリング・レポート診断

JWCでは、アカデミックライティングの支援として、レポートチュータリングとレポート診断のサービスを提供しています。レポートチュータリングは、教員あるいは院生チューターが個別に学生のレポートに関する相談にのるサービスです。相談後に学生が自分で問題解決ができるよう、具体的な計画を立てるところまでフォローします。レポート診断は、レポート全体の構成や段落の構成、日本語表現をチェックし、問題点にコメントを入れるサービスです。いずれもポータルから予約できます。

レポートチュータリング・レポート診断利用者数

	4月	5月	6月	7月	計
レポートチュータリング	9	99	126	137	371
レポート診断	0	7	9	46	62

秋期は以下のイベントの開催を予定しています。

- 9月20日（金）本の読み方セミナー（初級）
- 10月4～6日 だれでもビブリオバトル（創大祭のイベント）
- 10月23日（水）うそ？ほんと？（本からの情報収集の仕方）
- 11月27日（水）アクティブブックダイアログ（協同で本を丸ごと要約&対話）

●図書館連携イベント

書く力の向上には、読書（高次のインプット）が欠かせません。JWCは図書館と連携して、読書を推進するさまざまなイベントを行っています。今期は東京富士美術館とも連携して、ビブリオバトルを行いました。

実施日	イベント名	参加者数
4月26日（金）	グループブックトーク	6
5月15日（水）	フジビ×ビブリオバトル	26
6月26日（水）	哲学カフェ	23

フジビ×
ビブリオバトル



調べごとと相談

調べごとと相談のコーナーでは、レポートや卒論の参考文献検索、データベースの利用方法、その他の調べごと等の相談に応じるレファレンスサービスを行っています。（週3日間／一日3時間席）

相談内容は、初年次科目である「学術文章作法Ⅰ」の担当教員と連携しているため、この科目を受講している学生からの質問が大部分を占めています。他に、「卒論」やその他の授業、又、GCPといったプログラムを受講している学生からも参考文献や調べごとについての相談があります。

今年度から予約制度を導入しており、より効果的・効率的なサービスが出来るようになりました。

調べごとと相談（レファレンス）利用者数

	4月	5月	6月	7月	春学期	%
学術	0	13	12	5	30	70%
卒論	0	1	0	4	5	12%
その他	1	2	1	4	8	19%
	1	16	13	13	43	

■ 第15回 Global Lecture Series 2019年4月17日

4月17日第15回Global Lecture Seriesが開催され170人の学生教職員が参加しました。英国ウォーリック大学国際政治学部教授のヴィッキー・スクワイヤー氏が『グローバルな視点から捉える移民問題』と題する講演を行いました。日本学術振興会の招聘研究者であるスクワイヤー氏は、危険をかえりみず地中海を横断する移民の状況を示すスライドや地図を用いながら、移民に関する国連の2つの合意はこの問題を包括的に解決するには不十分であると論じました。講義の終わりには学生からも啓



発的な質問が成されました。スクワイヤー氏はそうした学生の質問の背後にうかがえる深い思考や、自信を持って質問する勇気を賞賛しました。別の学生は、講演に参加し英語力をさらに身につけていくことを決意できた、また難しい問題であったが多くの学ぶことができたとして述べていました。4月15日には、学生が講演の内容に事前に親しむことができるよう準備講座が開かれ、30人の学生が移民問題について討論しました。準備講座、スクワイヤー氏を迎えての講演ともに盛況で第15回Global Lecture Seriesは成功裏に終了しました。



■ WLCランチタイム プロフェッショナル・ディベロップメント (PD) リポート

6月6日のランチタイムセッションでは、コリン・ランドル講師と富田浩起講師が学習者オートノミーを発達させるリサーチ型アクティビティを紹介しました。このリサーチ型アクティビティでは、学生が社会問題の一つを選んで、3週間にわたり文献収集とクラス内のディスカッションを行います。リサーチ型アクティビティの主題にもなっている学習者オートノミーは、1981年に学習者オートノミーの父とも呼ばれる、ヘンリー・オレックが提唱し、その後さまざまな研究者によって体系化され、第二言語学習論の中でも重要

な分野として研究され続けています。学習者オートノミーの基本概念は、「自己の学習を管理する能力」と定義され、セッションで紹介されたリサーチ型アクティビティでは、「リサーチするトピックの選定」、「トピックへの理解を深化させるための文献の収集」、「プレゼンテーションまでのスケジュール管理」などオートノミーを伸ばすための工夫が紹介されました。アクティビティ紹介の後には、参加者による意見交換が行われ、実際に授業で使われていた資料や教材に触れる機会となり、活発なセッションになりました。

■ WLCプロフェッショナル・ディベロップメント (PD) リポート

7月3日のPDセッションでは、コリン・ランドル講師を中心に、CEFR (セファール) を基にしたWLCの英語カリキュラムの改定についての意見交換が行われました。現在進行中の大学入試改革に伴い注目を集めているCEFRは、Common European Framework of Referenceの略で、ヨーロッパ言語共通参照枠と訳され、様々な言語が用いられるヨーロッパで外国語の習熟度を測るために欧州評議会が開発しました。今後大学受験で用いることのできるTOEFLやILETSといった異なる英語検定試験の比較対照基準としてCEFRが導入される予定です。今回のセッ

ションでは、まずランドル講師からCEFRの概要の説明があり、「CEFRをWLCの英語カリキュラムの改定にどのように反映させるのか」を中心に意見交換が行われました。その後のディスカッションでは、創価大学の建学の精神に立ち返り、「WLCの英語教育が、今後どのように創価大学の発展に貢献できるのか」を議論し、既存のカリキュラムの改善点、特に「学術目的の英語」を中心に構成されている現行の英語カリキュラムの見直しについてなど、白熱した議論が飛び交いました。

■ WLC 教員の紹介 府川哲子 講師



府川講師はカリフォルニア州にあるモントレー国際大学大学院にてTESOLの修士号を取得後、神田外国語大学勤務を経て2018年よりWLCに所属しています。多くの学部でEnglish I - IVを担当し、2019年からはGlobal Citizenship ProgramのAcademic Foundations for Global Citizenshipの授業でTOEFL iBTの指導も行なっています。また、夏季・冬季には英語資格試験関連の集中講座を担当することもあります。研究テーマは、英語学習者のMotivationとDemotivationで、大学生の語学学習意欲がどのように変化するかに興

味があり、その変化を生じさせる要因を探求することを目的としています。さらに、前職にて英語プレゼンテーションに関わる仕事に長期携わったため、それに関するスキルやテクニックについても授業で取り上げています。英語学習がクラス内の経験で終わってしまうのではなく、卒業後も使い続けられる英語運用能力の育成に取り組んでいます。授業外では、Chit Chat Clubのスタッフトレーニングを担当し、利用者が限られた時間で効率的に、また安心して言語アウトプットできるよう、スタッフの個性をそれぞれ活かした人材育成を心掛けています。これからもWLCの講師として、時代と学生のニーズに応えていける英語教育者であり続けたいと決意しています。

CETL副センター長着任の挨拶

経営学部 准教授 大場隆広

2019年4月から、CETL副センター長になりました大場と申します。

私は2016年4月に創価大学に着任して、経営学部で経営史という科目を教えています。前任校は札幌の学校でしたが、着任当初、前任校と創価大学との違いとして大いに驚いたのが活発なFD・SD活動でした。毎月のように、FD・SDセミナーの案内がメールで配信されてきて、「なんて、教員の教育スキルアップに熱心な学校なんだろう!」と思いました。しかも、セミナー講師の人選も工夫されていて、飽きさせないプログラムになっていたのにも驚きました。

これまではCETLが提供する取り組みに気楽に参加する側でしたが、今年から提供する側にまわることになり、四苦八苦の毎日です。微力ながら、これからの創価大学の教育・学びの向上に、少しでも貢献したいと思っています。よろしくお願い致します。



2019年度春学期 FD・SDセミナー（学士課程教育機構主催）

■ 第1回FD・SDセミナー

5月24日（金）に、経営学部の望月雅光教授（CETLセンター長）を講師として、2019年度第1回学士課程教育機構FD・SDセミナーを開催しました。

「FD入門」をテーマとして、「高等教育における国の方針」について、「本学におけるFD・SD、及び個人レベルでのFDの必要性」について、「シラバスの書き方、授業アンケート」等についてご講演いただきました。

学内の教員15名の方に参加いただき、アンケートでは「シラバスの書き方、アンケートの見方について参考になった」「FD・SDについて積極的に取り組む必要があると感じた」「大学の置かれている現状について、他の教員と共有しながら理解できたことが有益であった」等の声が寄せられました。



■ 第2回FD・SDセミナー

6月8日（土）に、久留米大学文学部教授の安永悟氏を講師としてお迎えし、2019年度第2回学士課程教育機構



FD・SDセミナーを開催しました。

「LTD話し合い学習法の基礎と活用」をテーマに、①学び合える場づくり、②LTD話し合い学習法、③LTD基盤型授業モデル、等についてご講演いただきました。冒頭で「傾聴」や「ミラーリング」などの話し合いの基本が徹底され、セミナー中は終始活発な話し合いがなされました。

29名の方に参加いただき、アンケートには、「LTDの授業での導入方法や留意点について理解を深めることができた」「初対面の教員とワークを通して仲を深めることができた」「LTDを授業で使用した経験があるが、今回のセミナーを受講出来たことで新たな課題が見つかったので改善したい」等の声が寄せられました。

■ 第3回FD・SDセミナー

6月21日（金）に、「特色ある授業実践から学ぶ（1）」というテーマで、安武妙子氏（創価大学経済学部准教授）、松本敬子氏（創価大学経営学部講師）、戸田大樹氏（創価大学教育学部講師）の3名を講師としてお迎えし、2019年度第3回学士課程教育機構FD・SDセミナーを開催しました。

安武氏は「SUCCEEDゼミのスマート・クルーズ・アカデミー参加」を、松本氏は「経営学部におけるアクティブラーニングを活用した英語の授業」を、戸田氏は「学生におけるグループディスカッションの質的向上に関する実践授業—日常的及び教育的語彙を定義する活動を中心として

—」をテーマとして、授業の取り組みにおける効果や今後の課題についてご報告いただきました。

学内の教員27名の方にご参加いただき、アンケートでは「大学から一歩出るという『越境』とそのプログラム化の必要性を感じました」「It was useful to learn about Active learning of English Language, because my courses are also conducted in English」「語彙を定義する活動がグループディスカッションの質的向上を及ぼすという内容に共感しました」等の声が寄せられました。

■ 第4回FD・SDセミナー

6月29日（土）に、高橋浩太郎氏（文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長補佐）と佐藤昌宏氏（デジタルハリウッド大学大学院教授）を講師としてお迎えし、2019年度第4回学士課程教育機構FD・SDセミナーを開催いたしました。

高橋氏には「大学の将来を考える」というテーマで、佐藤氏には「EdTechが変える大学教育」というテーマでご講演いただきました。

これは、6月29日に本学で開催された「全国私立大学

FD連携フォーラム（JPFF）幹事会・総会・シンポジウム」（主催：全国私立大学FD連携フォーラム、共催：創価大学・学士課程教育機構）の内、シンポジウムを本学の「FD・SDセミナー」としても共催させていただいた企画になります。

「FD・SDセミナー」としては大学関係者22名の方に参加いただき、アンケートには、「時代の変化に伴う、学校教育の変化について学ぶことができた」「初等中等教育と高等教育の連携をさらに深化させていく必要性を感じた」等の声が寄せられました。

■ 第5回FD・SDセミナー

2019年9月7日（土）に、2019年度第5回学士課程教育機構FD・SDセミナーを開催いたしました。

今回のセミナーは、「初年次教育学会 第12回大会」（主催：初年次教育学会、共催：創価大学）が9月6日～8日に本学で開催され、この内、二日目のシンポジウムを本学の「FD・SDセミナー」として共催させていただきました。

「FD・SDセミナー」としては大学関係者25名の方に参加いただき、アンケートには、「高校から大学、大学から社会への移行を意識した教育を考え実行する上で大変有益だった」「リーダーシップを後天的にも育成できるという

点で、学生にとって学びがいのある授業となり、就職にも自信をもって臨めると思う」等の声が寄せられました。



■ 2019年度学士課程教育機構FD・SDセミナー 開催スケジュール

回数	開催日	講師	演題
第6回	11月 8日（金）	佐藤広子氏（学士課程准教授）	読解力向上につなげる教職学協働の取り組み
第7回	11月22日（金）		特色ある授業実践から学ぶ（2）
第8回	12月 6日（金）	朴勝俊氏（関西学院大学教授）	心をつかむプレゼンテーションの技法
第9回	3月 7日（土）	鈴木克明氏（熊本大学教授）	インストラクショナル・デザイン

学士課程教育機構 新任教職員紹介

WLC助教 ライアン ルイス スコフィールド
マリア ウィルマ カパティ



創価大学

創価大学学士課程教育機構ニュースレター [SEED] 第18号
発行日 2019年10月18日
発行者 創価大学学士課程教育機構
〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
<http://www.soka.ac.jp/seed/>